

2004年3月期 中間決算説明会

2003.11.17

日本板硝子株式会社
社長 出原 洋三

当初(6月2日)公表した
ACT21達成のストーリー(営業利益改善推移)



(単位:億円)	2002年度		2003年度 (目標)	2004年度 (目標)
板ガラス	64	グローバルスタンダード の利益率	100	110 ~ 120
情報電子	-66	ゼロリセット	-5	10+
ガラス繊維、他	45	競争優位の高収益	40	50 ~ 60
営業利益計	43		135	180+

経常利益計	-16		100	150
-------	-----	--	-----	-----

今年度上期 計画と実績(営業利益、経常利益)



(単位:億円)	02上期		03上期		03通期 当初計画
	実績	02通期 実績	当初計画	実績	
板ガラス	20	64	45	20	100
情報電子	-32	-66	-15	-19	-5
ガラス繊維	12	33	20	23	45
その他	6	12	0	-2	-5
営業利益計	6	43	50	22	135
経常利益計	-20	-16	35	0	100

今年度上期 改善計画と実績 (営業利益での対比)

(単位 億円)		当初計画	実績	差異
02年上期営業利益		6	6	0
増減要因	売価差	-6	-18	-12
	数量差	-7	1	8
	コスト差、その他	57	33	-24
合計(改善額)		44	16	-28
03年上期営業利益		50	→ 22	-28

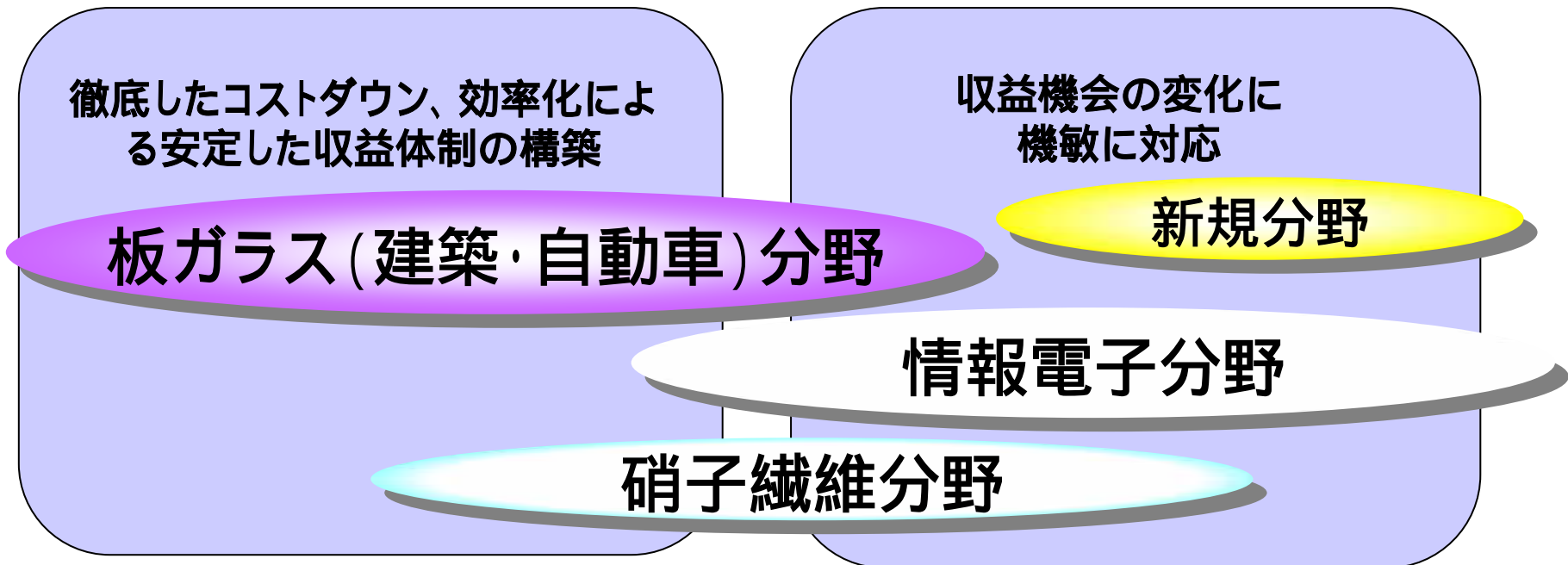
今年度下期、通期計画(営業利益、経常利益)



(単位:億円)	02上期	02下期	02通期	03上期	03下期	03通期
	実績	実績	実績	実績	計画	計画
板ガラス	20	44	64	20	40	60
情報電子	-32	-34	-66	-19	-1	-20
ガラス繊維	12	21	33	23	22	45
その他	6	6	12	-2	-3	-5
営業利益計	6	37	43	22	58	80
経常利益計	-20	4	-16	0	60	60

今期目標は、必ず達成！

New Vision達成への方向性



<進むべき方向>

- (1) 世界標準の利益を達成するための抜本的コストダウン
事業構造の効率化と不採算事業継続の見極め(リストラ)
- (2) グループシナジーの重視と、コア事業の拡大強化
ノンコア事業資源をコア事業強化の原資へ(選択と集中)
- (3) 「ガラス素材」をベースとしたR&Dと、新商品の創出、拡販

当社アクションが示すもの



(1) 世界標準の利益を達成するための抜本的コストダウン 事業構造の効率化と不採算事業の継続見極め(リストラ)

	内容	発表時期	業績への効果
ガラス	機能ガラス生産拠点の集約	(既に実施)	2003年4月～
	建築用不採算設備の停止	(既に実施)	2003年4月～
	天津フロートガラス社の譲渡	2003年4月	2004年4月～
	愛知工場閉鎖	2003年7月	2004年秋～
	自動車用ガラス事業の抜本的体制改革	(実施中)	2004年～
	硝子建材 支店の集約(札幌支店、他)	2003年7月	2003年7月～
情報電子	光通信事業の体制縮小(02年、03年)	2002年11月	2003年4月～
	磁気ディスク事業の撤退	2003年9月	2004年～
繊維	長繊維事業の会社分割、譲渡	2002年7月	2002年9月～

当社アクションが示すもの



(2) グループシナジーの重視と、コア事業の拡大強化 ノンコア事業資源をコア事業強化の原資へ(選択と集中)

	内容	発表時期	業績への効果
ガラス	自動車用ガラスの中国における事業展開	(実施中)	2004年～
情報電子	NHテクノガラス(TFT基板)台湾での設備増強	2003年6月	2003年下期～
	日本ペルノックス社の譲渡	2003年9月	2003年10月
	液晶用ガラスの中国での営業権取得	2003年9月	2002年下期～
繊維	バッテリーセパレータ 天津での設備増強	(実施中)	2003年下期～
その他	日本板硝子ビジネスブレインズ社の譲渡	2003年6月	2003年9月

当社アクションが示すもの



(3) 「ガラス素材」をベースとしたR&Dと、新商品の創出、拡販

	内容	発表時期	業績への効果
ガラス	防犯、超高断熱スペーシアや、光触媒クリーニングガラスなどの当社オリジナル新商品投入	2002年5月～	2003年4月～
	機能ガラス拡販施策(リフォームローン、その他)	2003年6月～	2003年6月～
情報電子	SLED事業の本格化、富士ゼロックスとの共同開発	2003年11月	2004年～
	複合機能プリンタへのSLA適用と販売拡大	(実施中)	2003年上期～
	マイクロ化学チップ、小型分析装置 発売開始	2003年6月	2003年下期～
繊維	メタシャインの化粧品分野への展開、拡大 (ロレアル、資生堂はじめ、各社への納入開始)	2003年1月	2003年上期～
	超高耐熱フィルタ(500度)の開発	(実施中)	2003年下期～
	電気2重層キャパシタ向けセパレータの開発	(実施中)	2003年下期～

セグメント別 要因分析

副社長 阿部友昭

板ガラス分野

NSG
NIPPON SHEET GLASS Co., Ltd



建築用ガラス
(硝子建材事業)

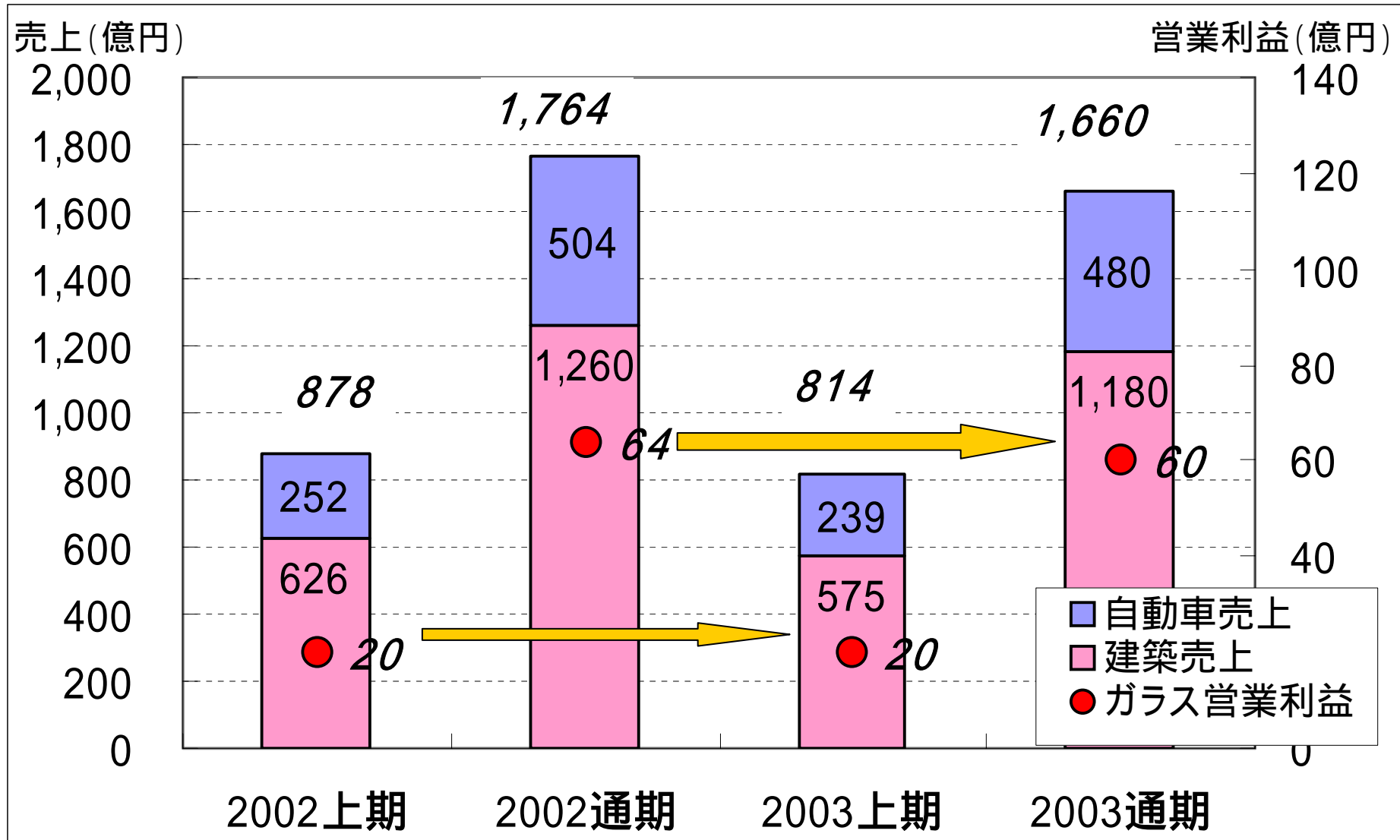
建築用ガラス、建材

自動車用ガラス
(輸送機材事業)



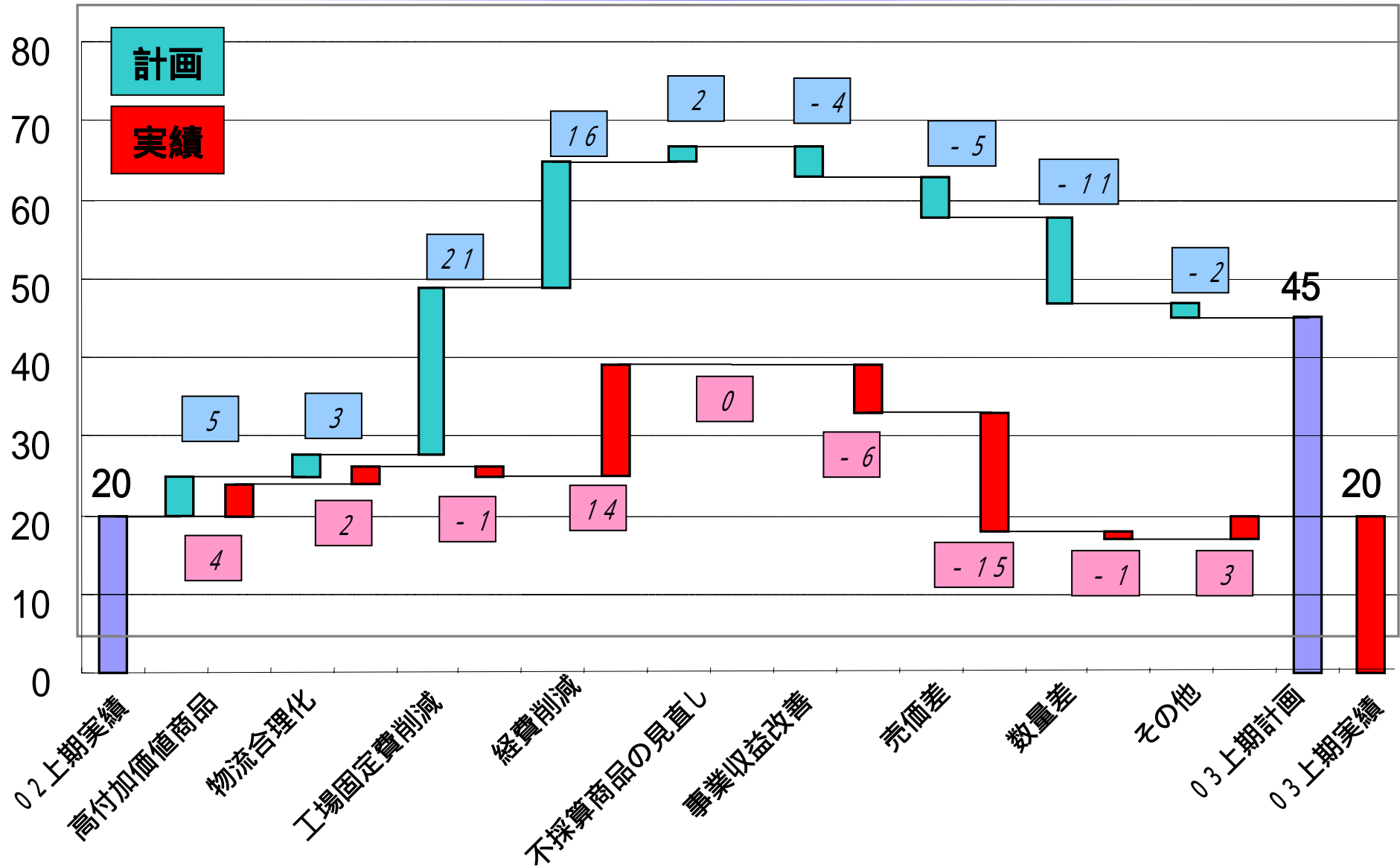
自動車用ガラス
各種車両用ガラス

< 板ガラス分野 > 売上、営業利益推移



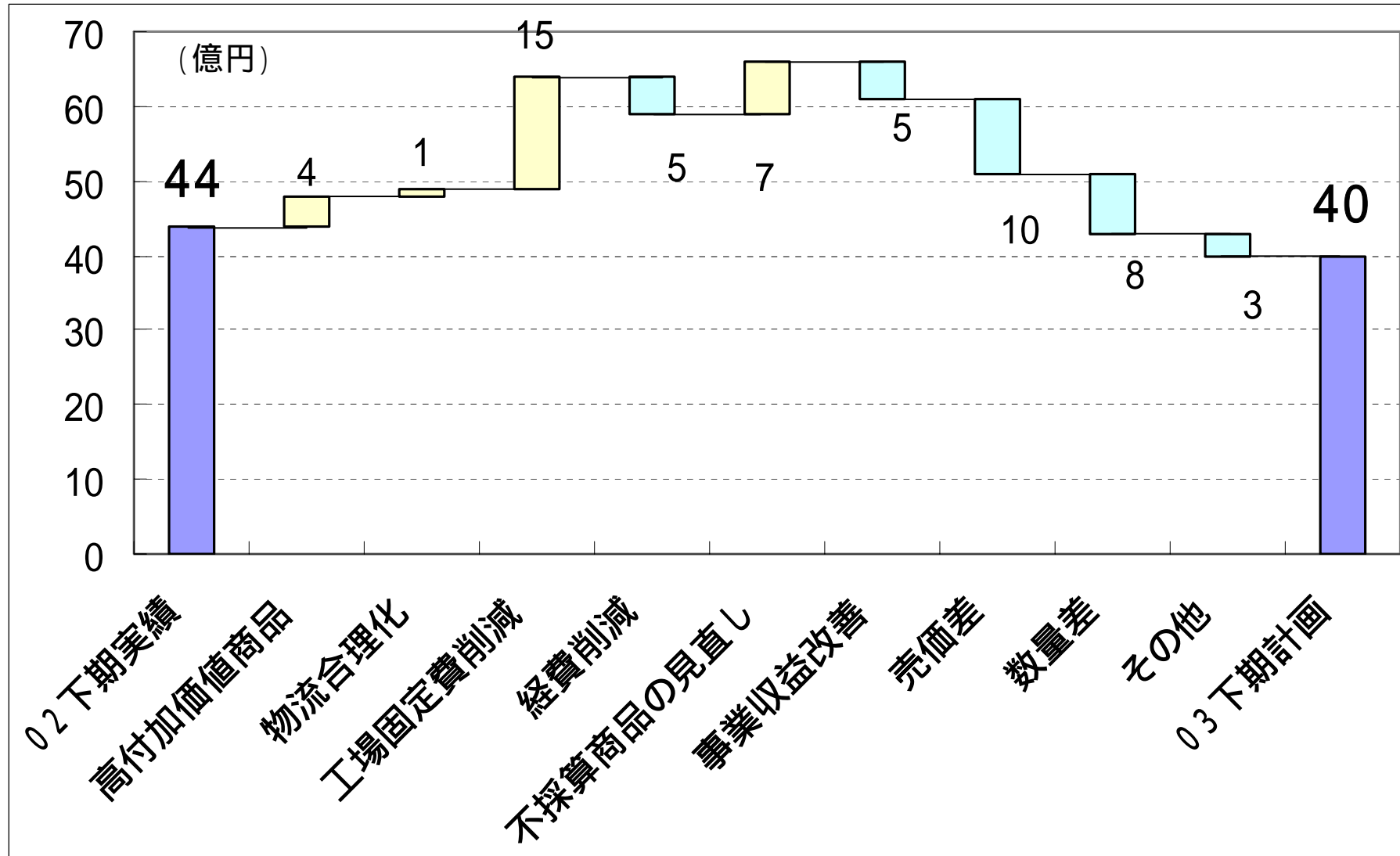
< 板ガラス分野 >

02年度上期 - 03年度上期 営業利益増減要因



< 板ガラス分野 >

02年度下期 - 03年度下期 営業利益増減要因



情報電子分野

NSG
NIPPON SHEET GLASS Co., Ltd

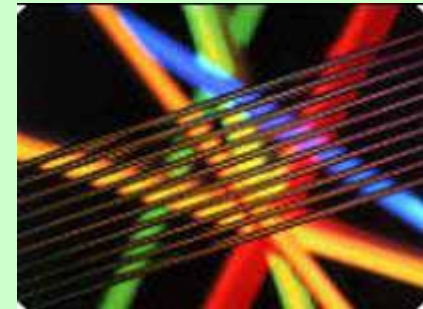
ディスプレイ

液晶用基板、PDP基板など



情報デバイス

SLA、SLED、化学強化ガラス他
プリンタ、スキャナ、コピーなどOA機器用部品



磁気ディスク

ガラス磁気ディスク

今年度 事業譲渡予定

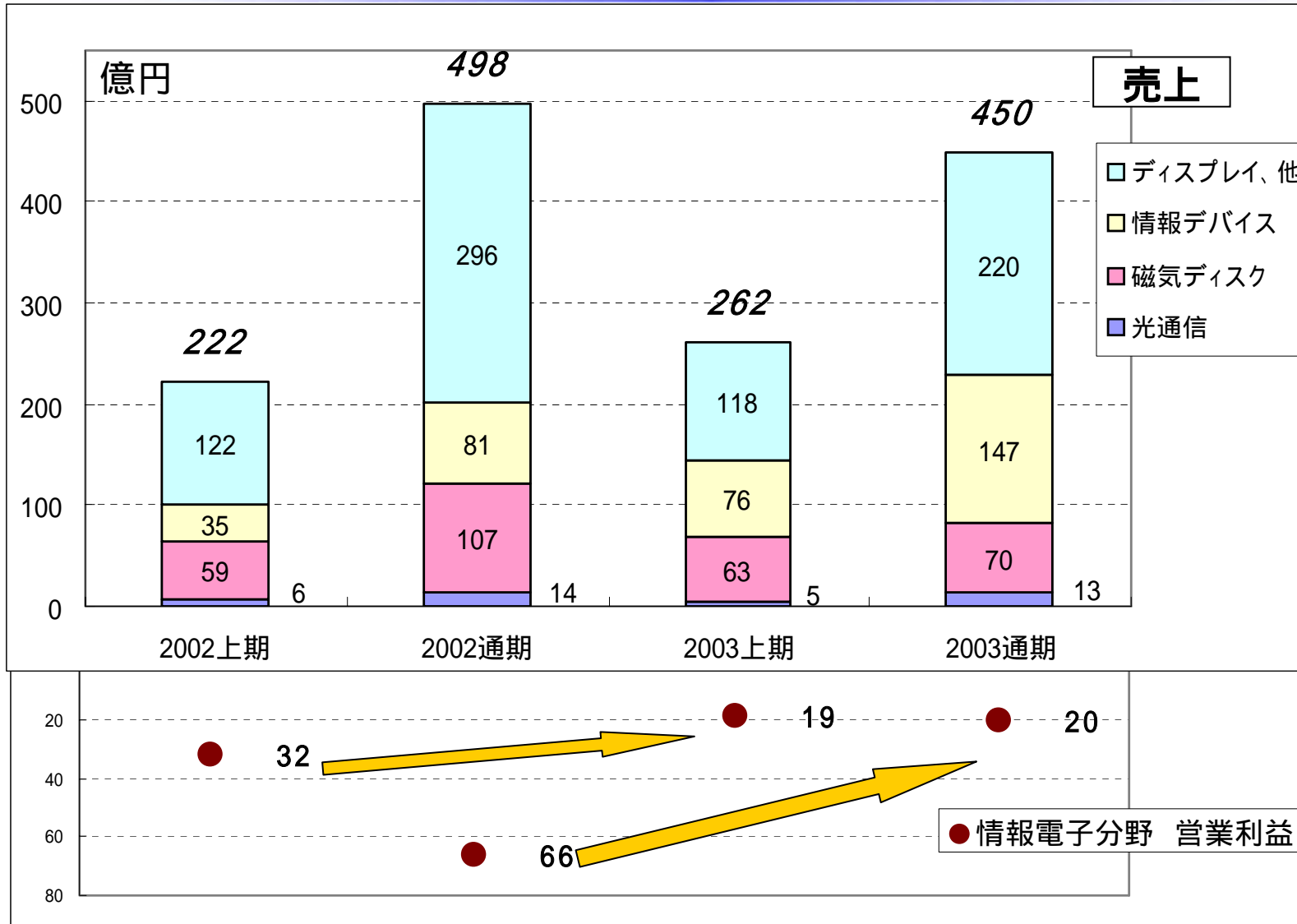


光通信

セルフフォーカスマイクロレンズ、
平板マイクロレンズなど

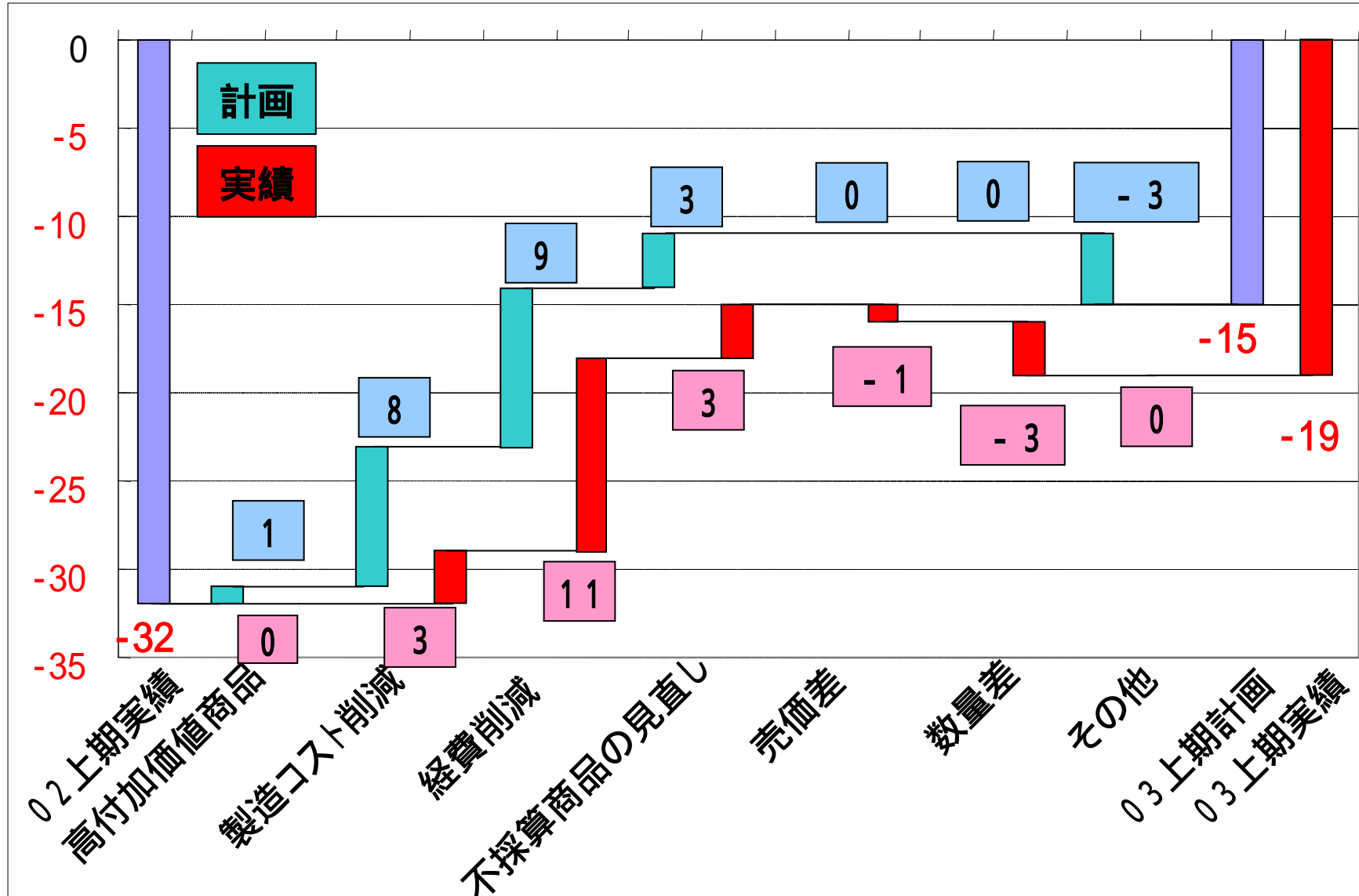


< 情報電子分野 > 売上、営業利益推移



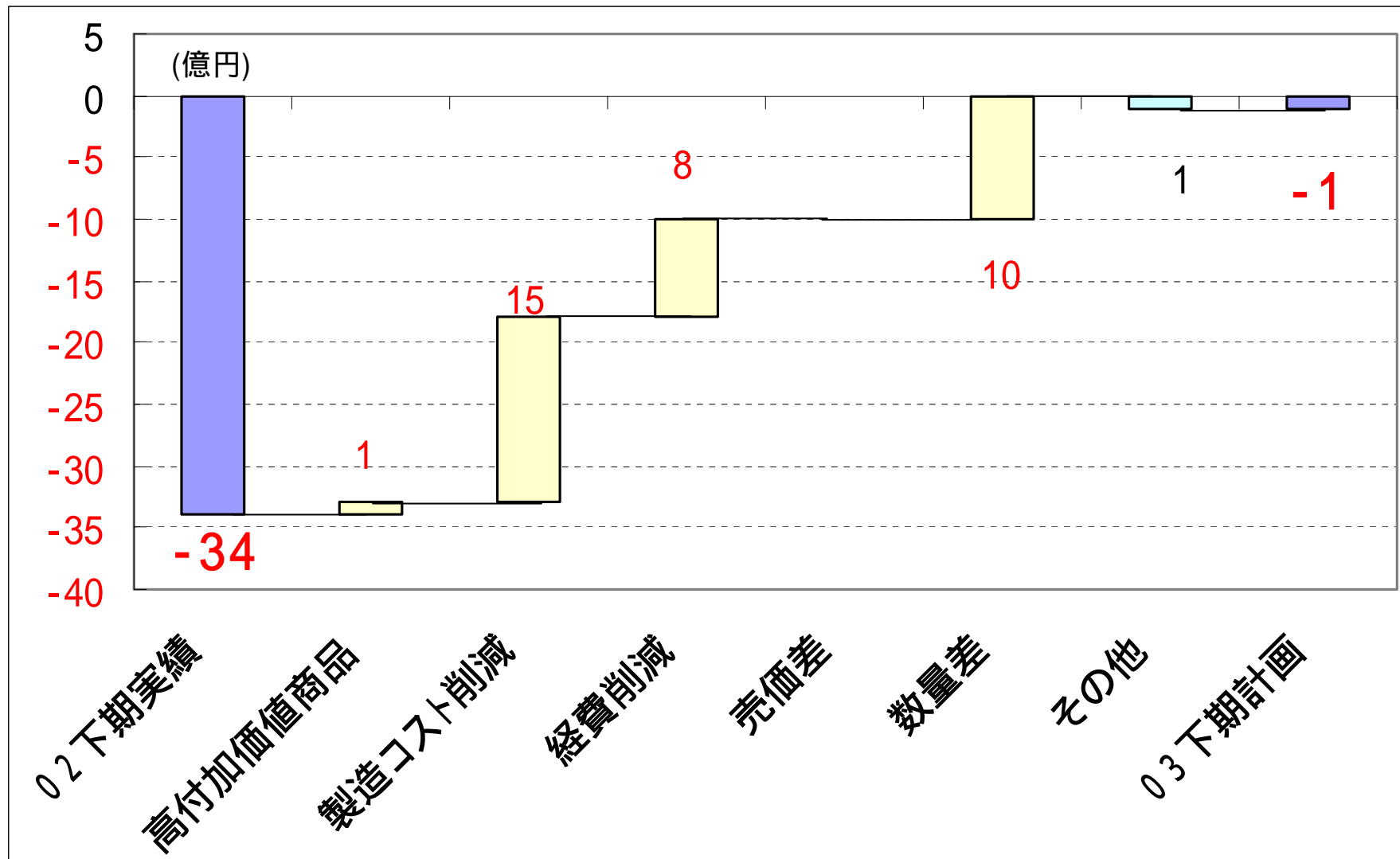
< 情報電子分野 >

02年度上期 - 03年度上期 営業利益増減要因



< 情報電子分野 >

02年度下期 - 03年度下期 営業利益増減要因



ガラス繊維分野

NSG
NIPPON SHEET GLASS Co., Ltd

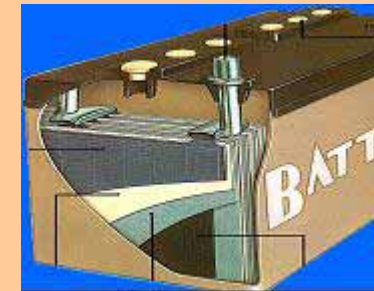
ゴムコード

自動車用タイミングベルト



バッテリーセパレータ

自動車、無停電装置などの鉛蓄電池



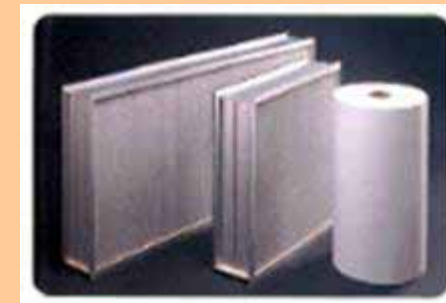
フレイク他

耐食、プラスチック強化材
光輝性顔料素材

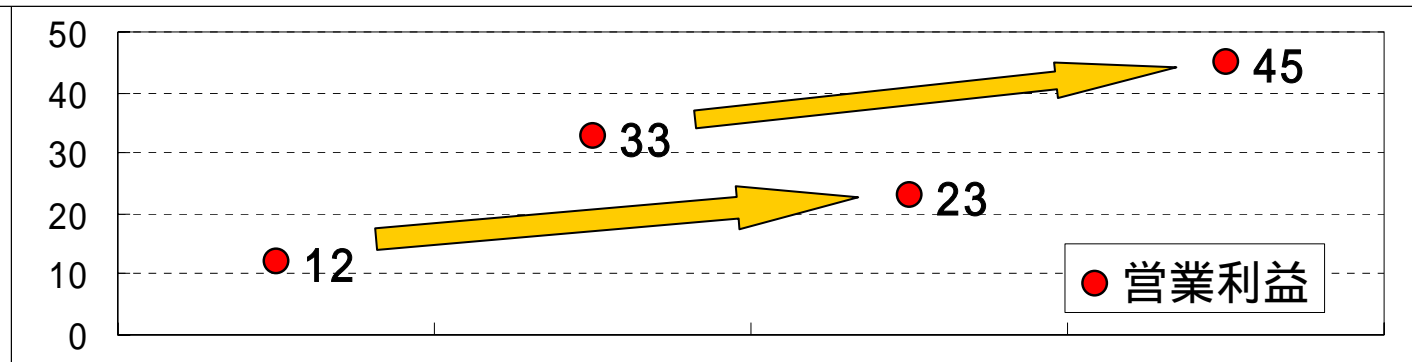
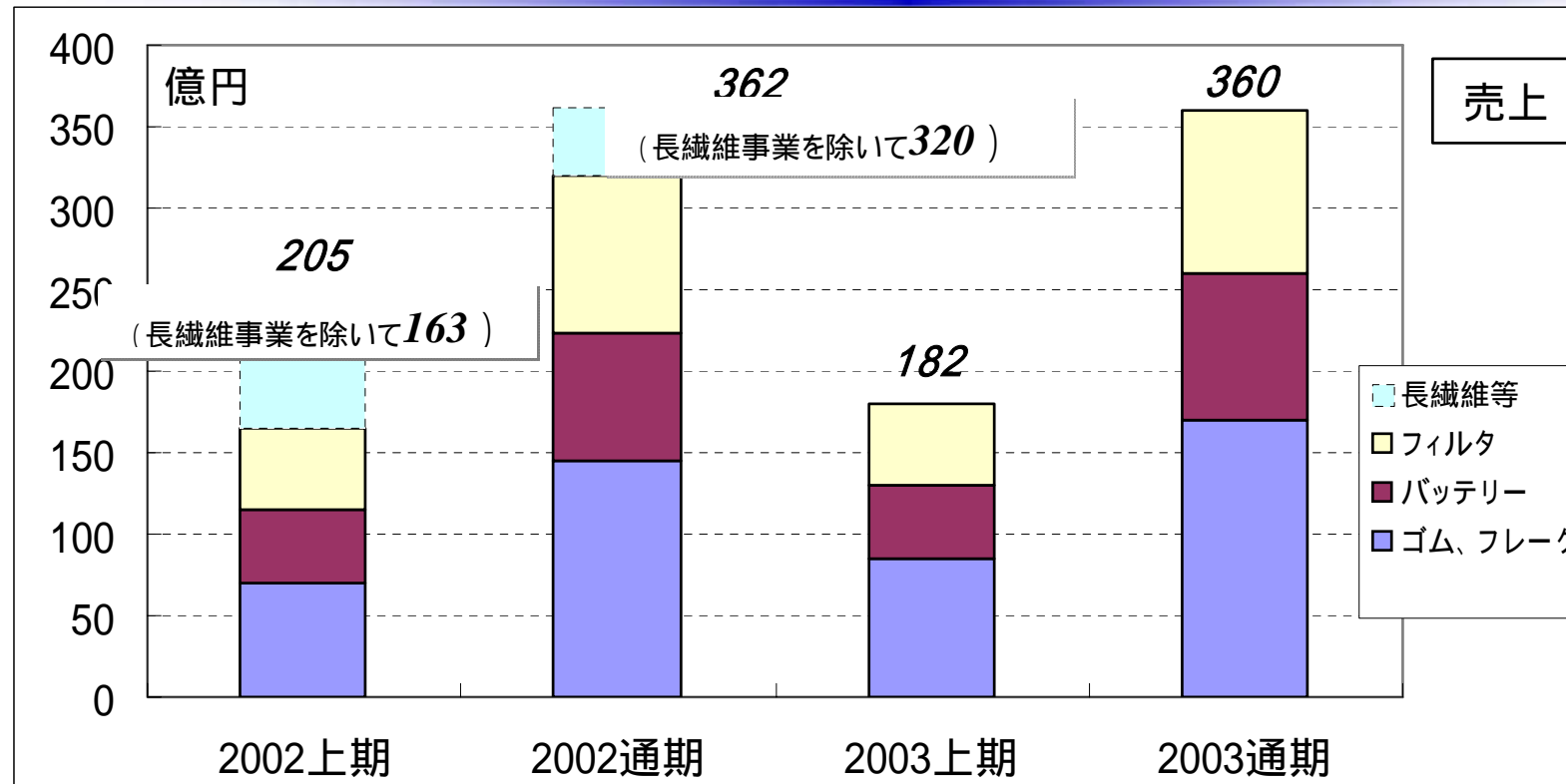


フィルター

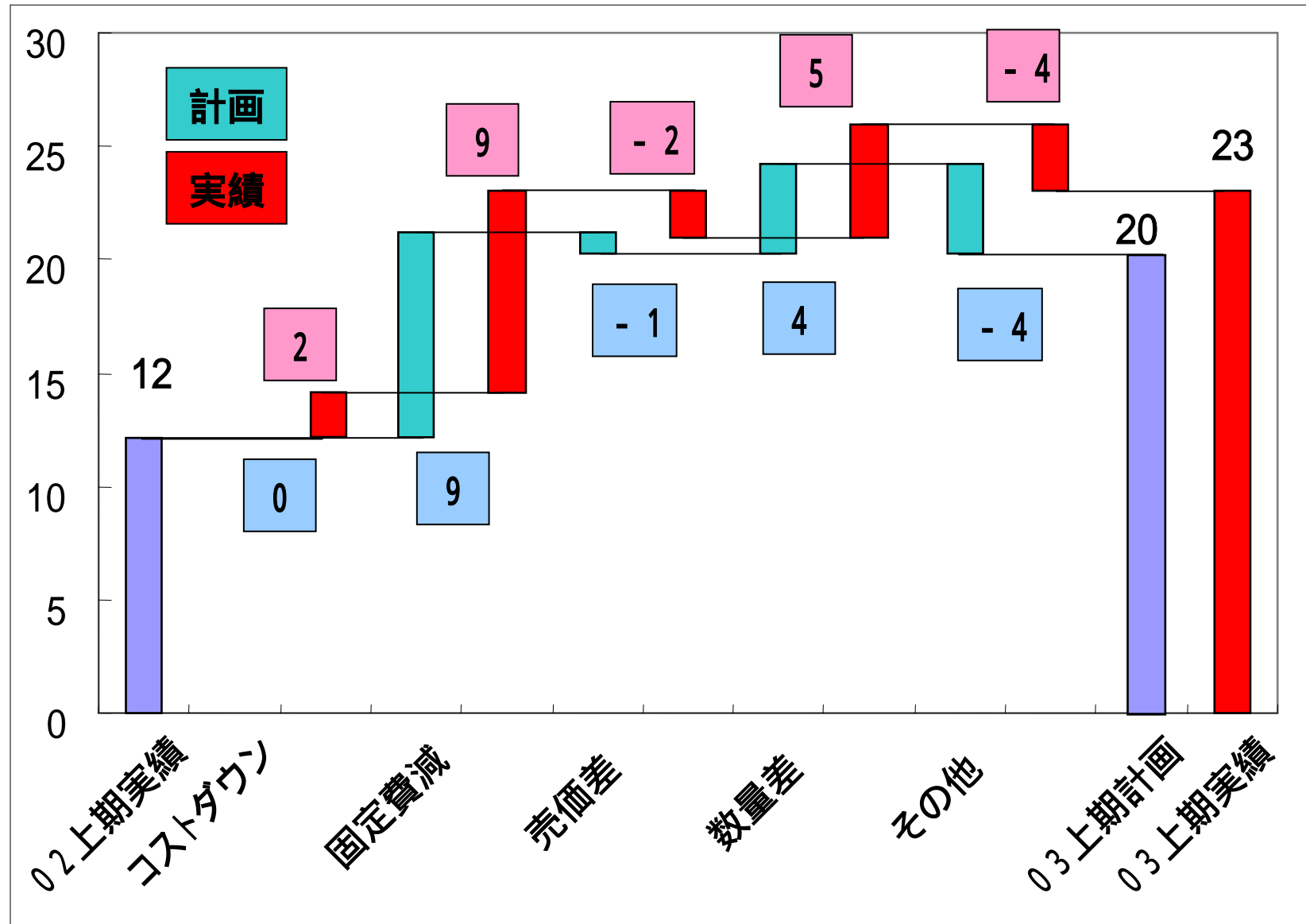
クリーンルーム用など



< ガラス繊維分野 > 売上、営業利益推移

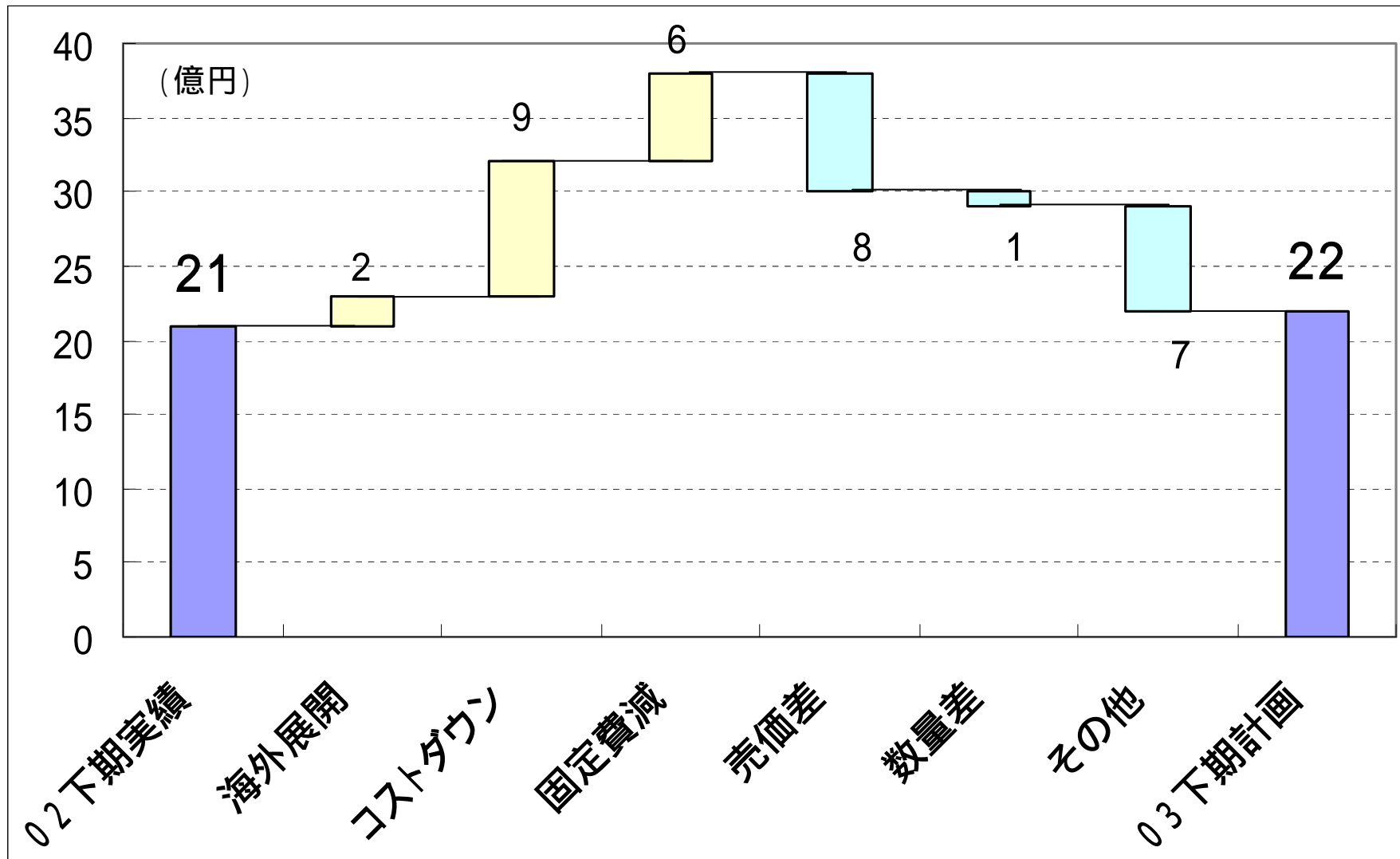


< ガラス繊維分野 > 02年度上期 - 03年度上期 営業利益増減要因



< ガラス繊維分野 >

02年度下期 - 03年度下期
営業利益増減要因



【参考資料】 前提条件、及び設備投資等の計画



	2002 実績	03上期 実績	03下期 計画前提	
為替	121	119	125	円 / US \$
重油	26	28	26	US \$ / b
SML需要	110	50	60	万個
国内住宅着工戸数	115	60	55	万戸
非居住着工床面積	63	32	28	百万m ²
国内自動車生産台数	1,030	497	510	万台

年度 (億円・人)	2002 実績	03上期 実績	03通期 予想	
				原油価格の反応度 1ドル / bblあたり年間1.3億円の負担増
減価償却費(連結)	178	78	150	為替の反応度 1円の円高で年間0.1億円減益
(単独)	98	42	85	
設備投資(連結)	144	55	120	
(単独)	93	32	80	
研究開発費(連結)	89	39	80	
(単独)	82	36	75	
フリーキャッシュフロー(連結)	294	18	80	
(単独)	215	9	50	
有利子負債(連結)	1,600	1,645	1,630	
人員(連結)	14,830	15,643	-	(臨時従業員を含む)
(単独)	2,936	2,900	-	

ご注意

当資料の業績見通しは、当社が現時点で入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、実際の業績は見通しと異なる可能性があります。その要因の主なものとしては、主要市場(日本、欧米、アジア等)の経済環境及び製品需給の変動、為替相場の変動等があります。

日本板硝子株式会社